

注意点1



Dメジャー・スケールがEドリアン・スケール!?

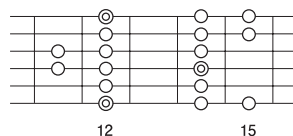
このフレーズで使われているEドリアン・スケールとは、Dメジャー・スケールを2番目のE音から並べ替えたスケール(図1-a)。そのため、Eドリアンをただ弾いているだけでは、Dメジャー・スケールと何も変わらなくなるので注意が必要だ。そこで“Eドリアンらしさ”、つまりDメジャー・スケールの2番目のE音を強調したEマイナー・コードの雰囲気を醸し出すために、図1-bのスケール・ポジションがよく使われる。これがベントニック+αとなるドリアンの正体だ。Em7コードの中で、このスケール・ポジションを巧みに操ると、少し知的な雰囲気が感じられる“ドリアン・モード”が完成する。

図1-a Dメジャー・スケールとEドリアン・スケールの比較

〔Dメジャー・スケール〕	D	E	F#	G	A	B	C#	D
	1	2	3	4	5	6	7	8
〔Eドリアン・スケール〕	E	F#	G	A	B	C#	D	E
	1	2	b3	4	5	6	b7	8

図1-b Eドリアン・スケールのポジショニング

◎ルート音=E



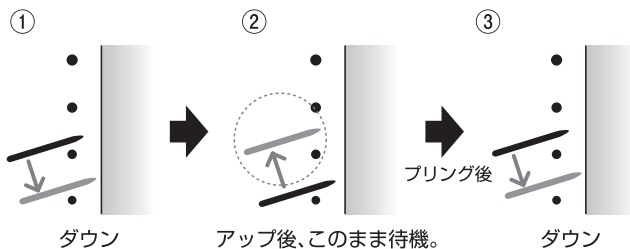
注意点2



速さと合理性を追求した変則的なオルタネイト

このフレーズを弾く際には、6連符のオルタネイト・ピッキングがポイントになるだろう。それはプリング時のものとフル・ピッキングの2種類あり、特に前者のプリング混じりのピッキングに注意が必要だ。通常ハンマリング&プリングが混ざったオルタネイトでは、空振りを入れることでリズム・キープを行なう。ところが、このパターンでは速さと合理性を追求するため、1回目のオルタネイトの後、弦移動をした次のダウンまで手を止めて待機した方がよい(図2)。ただし、手を止めてしまうということはリズムを見失う危険があるので、プリング時にしっかりと左手でリズムを感じることが大切だ。キッチリと練習しよう。

図2 待機を交えたオルタネイト・ピッキング



※右手の動きが止まるので、左手でしっかりとリズムを取ることに!

注意点3



1 & 2弦 12フレット上には常に人差指を待機させよう

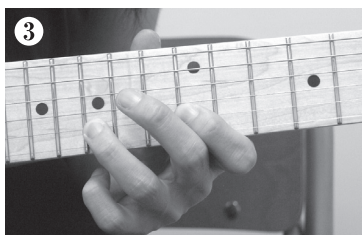
ここでは、特に注意が必要な2小節目を解説しよう(写真①~④)。まず2小節目では、常に人差指は1 & 2弦 12フレット上にいるようにするとよい。3拍目3音目の小指による1弦 17フレットの押弦時でも人差指は1弦 12フレットを押弦し続け、さらに指先で2弦に触れてミュートするようにしよう。続いて、薬指による2弦 15フレットの押弦時には、同時に人差指も2弦 12フレットへ移動させること。その時も指先で3弦に軽く触れてミュートするように心がけよう。あとは6連のリズムをキープさせることが重要になってくるが、“たかうじ”の“なにになにそれ”と言いながら弾くとリズムが崩れないのでオススメしたい。



小指による1弦 17fの押弦。人差指は12f上に待機させる。



1弦 12fを人差指で押弦。指先で2弦に軽く触れておこう。



薬指による2弦 15fの押弦。人差指も2弦 12fに移動!



2弦 12fを人差指で押弦。ここでも人差指は3弦に触れる。